サイエンスカフェの御案内

日　　時　：平成２７年７月２４日（金）１９：００～２０：３０

場　　所　：文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎１階）

　　東京都千代田区霞が関３－２－２

主　　催　：日本学術会議、文部科学省

テ　ー　マ　：ISIL はイスラームではないのか－近現代イスラーム思想史から考える

講　　師　：飯塚正人さん 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

ファシリテーター：小松久男さん 日本学術会議会員、東京外国語大学・特任教授

内　　容　：

いまや世界の注目の的となっている ISIL（アイスィル）（いわゆる「イスラム国」）。

彼らの出現と急成長の背景には多元的・複合的なものがあり、今世紀に限ってみても、2003 年のイラク戦争や 2011 年以降のいわゆる「アラブの春」、とりわけシリア内戦とイラク情勢を抜きにしては語れません。けれども、このサイエンスカフェではもっと長い時間、すなわち 19 世紀に遡る近現代イスラーム（思想）史の観点から、なぜいま、世界の大半のイスラーム教徒（ムスリム）から「あれはイスラームではない」と非難されている ISIL が、ほんの一部とはいえ、ムスリムたちをこれほどまでに引きつけるのか、考えてみたいと思います。

19 世紀に入って西欧諸国がムスリム諸国を圧倒し始めたとき、ムスリムのうちのある者は西欧流の政教分離に基づく国民国家の建設を目指し、またある者は過去のイスラーム解釈を再検討して時代にふさわしい新たなイスラームを産み出そうとしました。しかし、この２つの試みが必ずしも成功しない中で、1970 年代以降はいわゆる「イスラム原理主義」が高揚します。ムスリム自身が何をイスラームと考えるのか、余りに多様な主張が乱立する時代だからこそ、人々は「原理主義」のわかりやすさに引きつけられるのでしょう。思想史的に見れば、ISIL はこうした流れの中で生まれた鬼子に他ならず、だからこそ根が深いのかもしれません。なお、話題提供者としてはこのテーマを語ることで、「なぜイスラームはわかりにくいのか」という根源的な疑問にもお答えできれば、と考えています。

【参加方法】

事前申し込みでの受付となります。

「氏名」及び「７月２４日サイエンスカフェ参加希望」と書いたＥメールを sciencecafe@devotion-japan.com あてにお送り下さい。

【参加費】無料　　【定員】30 名

【アクセス】

銀座線「虎ノ門駅」11 番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13 番出口 徒歩 5 分

http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/access/index.htm